

緑の相談所だより



No.131

財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑の相談所
〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel : 0166-65-5553 Fax : 0166-65-5626
旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>

発行：平成23年8月1日

緑のセンターまつり 2011

日時：平成23年8月7日(日) 午前10時～午後4時 **緑のセンター(神楽岡公園内)**
内容 { 青空体験講習会、花と緑の相談コーナー、園芸市、球根・花苗(旭川市を緑にする会提供)プレゼント、
フラワービンゴゲーム、親子餅つき大会、ハンキングバスケットコーナー、農産物即売コーナー、納涼ビアガーデン、
よさこい演舞、神楽岡太鼓演舞、旭川農業高校生による販売実習など…
展示：洋ラン、ミニ盆栽、山野草、石花盆景、押し花サークル



お待ちしております！



講習会のご案内

「プリムラと春咲き球根の寄せ植え」(実習)

とき 平成23年9月18日(日) 教材費¥600
午後 1:30～3:30

定員 20名
講師 相談員

「神楽岡公園自然観察会と秋の植樹会」

-桜のトンネルプロジェクト協賛-

とき 平成23年10月16日(日)
午後 1:30～3:30

定員 一般20人と小中学生の親子20組
講師 旭川みどり21の会 代表 成田一芳さん

展示会のご案内

「押し花展」8月7日～31日

出展：つくしんぼ押し花サークル

「花壇コンクール写真展」9月1日～17日

出展：花フェスタ実行委員会

☆～お知らせ～☆

展示会の初日は準備のため、ご観覧は午後からです。

4月～10月は第2・第4月曜日が休館日です。

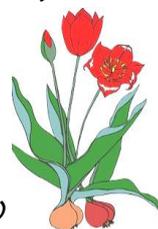
11月～3月は毎週月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)

※各講習会のお申込み受付は前月の20日から、定員になり次第締切です。

緑のセンターまつり 2011



★チューリップの球根
プレゼント(数量限定)



8月の園芸作業

1 鉢花・草花・球根 類

ユリやグラジオラスは花が終わったら早めに花がらを摘み取りましょう。

シャコバサボテンは未熟な新芽に花芽が出来ないので摘み取りましょう。

シクラメンはお盆が過ぎたら、新しい用土で一回り大きな鉢に植え替えましょう。

2 庭木・果樹 類

サクランボの灰星病罹病果は地面に落果して病原菌が越冬します。また樹上でミイラ化した被害果も同じです。翌年の伝染減となりますので地中深く埋めるか、ゴミとして処分しましょう。

3 洋ラン 類

下旬にかけて置肥、液肥などの追肥を減らしていきましょう。カトレアはシースが出たら追肥を中止しましょう。

9月の園芸作業

1 鉢花・草花・球根 類

スイセン類、クロッカス、チュウリップなどの球根は中下旬迄に植えましょう。

インパチエンスなど四季咲き性の草花は鉢上げして冬も楽しみましょう。

ポインセチアやハイビスカスなどの耐寒性のない鉢物は中旬迄に入室しましょう。

2 庭木・果樹 類

イチイ、ヒバ、マツなどの剪定は中旬頃迄に終わらせましょう。

3 洋ラン 類

デンドロビウム(ノビル系)は最低 10℃程度まで戸外で育てましょう。朝の気温が7～8℃になったら入室し、涼しいところに置きましょう。シンビジウムも同じです。

カトレアは最低気温 12℃を目処に入室しましょう。

緑の相談 QアンドA (5)

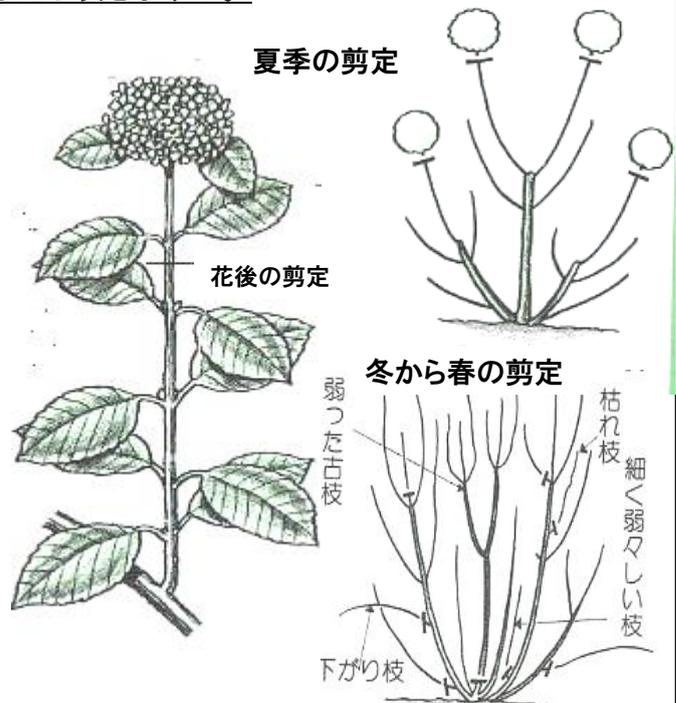
アジサイの花が咲かないのですが、どの様にしたら咲きますか。

アジサイの着花習性（花芽の出来るタイミング）は、はっきりわかっていないのが現状です。例えば、放任してよく咲いていたものを春に手入れしたら急に咲かなくなったり、伸びすぎた茎を秋に短くしたら花がつかないことが有ります。

アジサイは前年の秋までに伸びた茎の内部に花芽を作りますが、この花芽はなかなか確認が難しいです。秋の剪定はもちろん、春の剪定もこの花芽を切っていることになるので、花が咲かないのです。

放任しておくのが一番ですが、剪定する場合は花後に花から2節目くらいを早めに切っておくことです。

他に花が咲かない原因は極端な日照不足や夏から秋にかけての生育不良があげられます。冬の寒風害も花芽が枯死して咲かない場合があります。肥料もチツソを控え、リン酸、カリの肥料を使うと効果があると言われています。これらのことに挑戦してみてください。



植物の病害虫

その11 「スモモのふくろみ病」

果実が不思議な奇形を呈する病気です。古くから知られており、近年でもしばしば発生しています。



1 寄主範囲

スモモ、ユスラウメ、ウメ

2 病徴

落花後間もなく、果実に発生します。まれに葉に発生することもあります。被害果は次第に肥厚して、奇形を伴うのが特徴です。はじめは多少赤味を帯び、長楕円形、長刀状など異常に肥大し、表面に多数の小じわができ白粉で覆われます。少し湾曲することが多く、内部は空洞で縫合線にそって亀裂ができ、しだいに白粉が消失して黒褐色に変わり、萎凋して落果します。果実は健全果の5~6倍もの大きさになり、集団して発生することが多いので、診断は容易です。葉では、厚さを増して屈曲した奇形葉になり、白粉を生じ、のちに乾燥して落下します。

3 伝染経路

病原菌の胞子は果実の果皮下や、空洞内面の内果皮上に形成されます。胞子は縫合線の裂け目から外部に飛散し、枝の芽や樹皮に付着し越冬して伝染源となります。翌春、スモモの発芽期頃に雨が降ると胞子は飛散し、幼果や葉の組織内に侵入します。被害果からの二次伝染はありません。

4 発生環境

発芽期から開花期にかけて低温・多雨であると多発多くなります。「ソルダム」、「フォーモサ」などは発生が多く、「ビューティ」、「サンタローザ」、「大石早生」などの発生は少ないようです。

5 防除

- ① 発芽直前に樹体を洗うように十分に薬剤を散布します。
(発芽直前の散布は高い防除効果があります。この時期以降では防除効果は劣り、また開花後の散布は薬害があるので注意が必要です。)
- ② 翌年の伝染源をなくすために、被害果、病葉などは白粉を生じないうちに摘み取り、土壌中深く埋没しましょう。いつまでも被害果を畑に放置しないようにしましょう。

秋の七草

秋は、稔り多く豊かな季節です。豊かな季節に咲く秋の七草を愛でてはいかがでしょう。

秋の七草とは、はぎ・すすき・くず・なでしこ・おみなえし・ふじばかま・ききょうを言います。その花たちは、どれもが秋の盛りに華やぐ花ではありません。どちらかといえば初秋の花、晩夏の花、6月の終わりから見られる花さえあります。

はぎ その字は草冠に秋。そして秋の七草の筆頭。古くから愛された花で、万葉集にもっとも多く詠まれている花です。小花をつけ揺らぐ枝々は、秋の野になんともいえぬ風情を生み出します。



すすき 獣の尾のようなので尾花。すすきは人里から深山まで、七草の中では最もよく見られるものです。大型で、群れ咲いてなびく姿は郷愁を誘い、夕日に輝く姿などはこの上ない美しさです。



くず 成長力は著しく、他の木に絡みつき繁茂します。万葉時代の風情ある秋の七草の中で花は美しい部類に入ります。



なでしこ 撫子と言えは河原撫子を指します。花卉の深い切れ込みが繊細で、日本人好みの花といえます。別名を大和撫子。奥ゆかしい日本女性に例えた名前だということにも納得されます。



おみなえし 明るい花色。加えて直線的な円錐花序のデザインが天に伸び、元気なイメージが伝わります。庭などに植えられたものをよく見かけます。



ふじばかま 昔からの河原などに自生し、花には派手さはありませんが、筒状の花は長期間観賞でき、素朴な風情を楽しめます。



ききょう パンパンにふくらんだ蕾を経て、開花となればきっぱりと実に端正、青紫の花色と相俟って、万人の心を捕える花といえましょう。



展示室の植物 (38)

ドラセナ・コンキンナ リュウゼツラン科 ドラセナ (ドラカエナ) 属

インド洋のモーリシャスが原産の常緑性の低木。縦縞模様の細長い葉を多数つけた姿は、繊細な雰囲気があります。若いうちは単幹で株が古くなると分枝します。幹を曲線状に仕立てた洋式盆栽風の仕立てもできます。

濃紅色の覆輪と黄白色の縞の入る‘トリカラー’さらに赤みが強い‘レインボー’白い縞が入る‘ホワイホリー’などの品種があります。

